

今こそ

『ロータリー通解』を

明石西 多胡 健吾

一九一五年に刊行された、『ロータリー通解』（ガイ・ガンディカー著、小堀憲助訳）はロータリーのバイブルとされていて、

一〇〇年を経過した今も色あせることなく、われわれが忘れ去ろうとしているロータリーの本質を首尾一貫して説いています。

本書は、ロータリークラブの目的として

①会員個人の向上、②会員企業を理想と現実において向上させること、③会員の属する職種全体の向上、④会員の家、町、国、ならびに社会全体の向上させること、となつています。①は現在の「ロータリーの目的」が、すべて、ロータリアン個人を対象に書かれていたということに、②は「ロータリーの目的」の本文に、見事に反映されています。

会員個人個人の向上は、ロータリーの理想の追求と実践の基礎であり、その手段として例会があり、例会において異なる職業を代表する会員と親睦を深める中で互いに切磋琢磨し、職業人として自己を向上させなければなりません。例会はロータリーの原点であり、核心です。出席率の高い会員こそロータリークラブの宝なのです。

一業種一会員制については、現状は然らず、言葉もありません。ロータリアンの種類はただ一つ、積極的に活動する、active Rotarianであり、会員はロータリーが彼の属する企業団体へ送った大使です。例会のプログラムは娯楽的なものよりも教育的、企業経営的行事を優先させるべきであり、少なくとも六週間に一回はロータリーに関する理解を深めることだけを目的にする例会をもたねばなりません。

ロータリーにおける奉仕とは、奉仕すべ

き人と物を行動に結び付ける心の状態を言います。額に汗しない奉仕はないと言えます。職業奉仕はロータリーの根幹をなすものでありと再認識されます。

また、最後に掲載されている、「ロータリー倫理訓」は、全てのロータリアンが一読し、肝に銘ずべき教訓に満ちていて、われわれに高い職業倫理をもち、寛大で、行動力のある真の人間になるよう求めています。

この著書は決して時代遅れではありません。ロータリーがその本来の輝きと魅力を失いつつある今こそ、ロータリアン必読の書であることを確信します。

（第二六八〇地区 兵庫県 外科医）